

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年3月9日

事業所名 発達支援ルームAQUA

		チェック項目	はい	いいえ	無記入	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		1	人数や特性に合わせて部屋を使い分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	9		1	安全確保のため余裕をもって配置している。	業務内容や量的に不足との意見があり、今後の課題として取り組みたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	3	1	入口とびらの段差が少しあるがスタッフ介助でサポート可能。扉がすぐ閉まらないようにストッパーを作成。	利用者に応じ、バリアフリー化等について検討する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10			子供の特性に合わせてプレイルームを使い分けている。また、毎日の掃除や活動終了時の消毒を徹底している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2	2	より幅広く参画できる工夫が必要。	全職員の意見を反映出来るような体制作りが必要であると認識し、取り組みたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10			意見箱を設置し保護等の意見の把握に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1	1	HPIに公表している。	公表しているが、スタッフ間での共有が不十分のようであるので、会議等で周知の徹底を図りたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	6	1		第三者委員会の設置について今後の課題とする。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		1		継続して実施する。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9		1	専門職を配置し、検査などのアセスメントに従事している。	継続する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9		1	専門職を配置し、検査などのアセスメントに従事している。	継続する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9		1		今後、さらなる充実を図りたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		2	支援計画の内容についてスタッフで共有し支援にあたって	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9		1	毎日ミーティングを実施している。	継続して実施する。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		1	子どもからの希望も取り入れて立案している	遊びが同じになりやすくバリエーションを増やしたい。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9		1		特性に応じ、実施出来ているケースと、そうではないケースがある。対象児の実態に応じ柔軟に調整したい。	

		チェック項目	はい	いいえ	無記入	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10			朝礼・昼ミーティングにて毎日確認している。	継続して実施する。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10			終礼にてふり返り・ヒヤリハットの報告を行っている。	時間的に十分でないとの意見がある。別途時間等を設け、共通認識を図りたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		1	毎日、支援の振り返りを行い、次回に繋げている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9		1	子供の状態の変化や保護者のニーズを適宜取り入れられるように努めている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9		1		可能な限り参加しているが、全てとは言えないため、今後の課題であり、出来るだけ参加に努めたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9		1	ケースによる。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	1	5	該当児なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	2	6	該当児なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9		1	ケースによる(移行支援に使用出来る評価、TASPや保護者のサポートブック作成を支援している。)	継続して実施する。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9		1	子どもの状態やニーズに応じて支援会議や保育所等訪問事業を活用している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	1	1	今年度は出来ていない。	継続して実施する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	6	3	本所では、完全な通園スタイルではないため、対象児はほぼ全員地域の保育園等に通園している。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	2	1	管理者が参加している。	継続する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		1	保護者が毎回来所しているため、その場で話ができる	「もう少し保護者とのコミュニケーションの機会が必要」との意見もあり、人為配置などを工夫して、担当者と保護者が意見交換できるような機会を
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	3	2	ペアトレとしては行っていないが個別で面談するなどしている。	今期は開催が難しかったが、今後開催したい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		1		利用契約時に個別に実施している。継続して取り組みたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	1	1	今後も丁寧な説明を行い、理解を得られるように努めたい。	

		チェック項目	はい	いいえ	無記入	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		1	来所時に気になることを連絡票を記入してもらっている。また、子どもに気になる様子がある時などには積極的に声かけし、保護者の悩み等に対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2	3	保護者向けの勉強会を行っており、その中で保護者同士のつながりを保っていると思う。またグループ編成にあたってはピアカウンセリングの要素を意識する場合もある。	継続して実施する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		1	来所時に気になることを連絡票を記入してもらっている。相談がある時は別途時間を設け、担当者を中心に対応し	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	2	3	必要に応じて行事予定を伝えている。会報はないがチラシや張り紙がある。特別プログラムはその都度紙面にてお知らせしている。	報告事項は、特定のグループや活動に応じ限られた状態である。さらなる発信の必要性について検討する必要があるかもしれない。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10			今後も職員への周知徹底を継続していきたい	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		1	それぞれの子どもや保護者の特性について職員間で共有し、適宜対応している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5	3		地域の福祉祭り等での、ポスター展示等による周知は実施しているが、地域の方を招待するような行事等は行っていない。今後開催するべきか検討したい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		1		作成し、周知しているが、全ての職員で共有出来ていないようなので、今後周知の仕方について検討する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		1		継続して実施する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9		1	事前に保護者から聞き取りを行い、職員間で共有して対応し	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	5	2	定期的な食事の提供は行っていないため	調理活動の事前に確認しているが、好き嫌い(偏食等)を含め、更に丁寧な把握が必要だと考えられるため、活動立案に合わせ実施する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	3	毎日のミーティングで情報共有	事例集はない。職員間で報告し共通理解を図っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		1	年間行事で研修を設定し、周知徹底を図っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	5	3	該当児なし	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。